

小館誓治研究員

春に花が咲く木といえは、やはりソメイヨシノでしょう。ソメイヨシノは学校や公園、街路など身近な場所によく見る木の一つです。サクラ類の一種で、同属のエドヒガンとオオシマザクラを祖先とする種間雑種とされています。

ソメイヨシノはエドヒガンのように葉が展開する前に花が咲きます。花びらは5枚あり散るときは1枚ずつ落ちていきます。しかし昨年4月、花びらの下にあるガクと一緒に花がたくさん落ちていたのを見つけた。II写真A。その上方の枝先を見ると花の柄の部分が残っています。II写真B。

ガク筒と呼ばれる部分でちぎれてその先の花全体が落ちていきます。犯人はスズメのようです。スズメが花を落としているところを運よく写真に撮れました。スズメの写真も撮れたのです



ひとはく 研究員 だより

春の自然観察

ソメイヨシノ花の内外の蜜

が、よく見るとスズメの仲間のニュウナイスズメII写真Cも写っていました。ニュウナイスズメ(雄)はスズメと違って頬に黒斑がなく、頭部と背面が明るい栗色をしています。

花を観察しているとハチ類やメジロ、ヒヨドリなどが訪れ甘い蜜を吸っていました。それらは花粉を運んでくれますが、



葉身 葉柄

スズメやニュウナイスズメは、くちばしが太くて短く花の正面から蜜を吸うことができないのか、ガク筒の部分を横からちぎって蜜を吸って花を落としているようです。

ソメイヨシノの花が終わると緑色の葉が展開し始めます。その葉を観察すると葉柄の上部や葉身の基部などに、おちよこや

おわんのような形の小さなものが1〜2個あるのに気がつきます。葉が若いとき、そこから甘い蜜が出ていますII写真D。これを花外蜜腺(かがいみつせん)といいます。ではなぜこのような蜜を出すもの(蜜腺)が葉にあるのでしょうか？

実はアリ類を呼ぶためといわれていますII写真E。羽根を持

- A II 落とされたソメイヨシノの花
- B II ガク筒がちぎれて枝先に残った花の柄
- C II 花をくわえるニュウナイスズメ(雄)
- D II 葉の蜜腺から蜜が出ている
- E II 葉の蜜腺の蜜を吸うアリ類
- F II 桜餅の葉にある蜜腺(赤印)

たないアリ類は、甘い蜜に誘われて葉にたどりつくまでに地面から幹、太い枝、細い枝、葉柄へと順に歩きます。そうしている間に幹、枝、そして葉をパトロールすることになり、葉を食べる幼虫などを見つけて蹴散らしてくれたり、持って行ってくれたりするようです(そうだったら葉を守ることになるのでアリさんエライ！)。

余談ですが、餡が甘い桜餅の葉はオオシマザクラを使うそうですが、その葉に蜜腺が見られることがありますよII写真F。皆さん、身近なところで春の自然観察をしてみませんか？